

創刊号

日本語の今と明日をシンキング

シンキング・バーズの日本語研究誌

コトバ

座

特集

文字化時代の
日本語を考える

シンキング・バーズ
日本語研究班

季刊

Thinking Birds

目 次

■巻頭エッセー

日本語にとって幸福とは何か	・・・・・・・・・・	2
---------------	------------	---

特 集

文字化時代の日本語を考える

－会話体の文字化と日本語特性－

会話体の文字化への眼差し	・・・・・・・・・・	3
--------------	------------	---

「3. 1 1」ツイート分析	・・・・・・・・・・	6
----------------	------------	---

－災害時に文字化された“つぶやき”－

簡略化に見る日本語の節度	・・・・・・・・・・	16
--------------	------------	----

■日本語論

「日本語」という日本語

～「和語」と「日本語」の切り分け	・・・・・・・・・・	19
------------------	------------	----

ワタシたちの「日本」

～「ニホン」と「ニッポン」	・・・・・・・・・・	21
---------------	------------	----

■連載

現代語訳『民間備荒録』 第1回	・・・・・・・・・・	23
-----------------	------------	----

■現代日本語文の技法講座

「～し」と「～して」の使い方	・・・・・・・・・・	29
----------------	------------	----

■書評

テレビと子どもたちの「心の世界」	・・・・・・・・・・	30
------------------	------------	----

村野井均著『子どもはテレビをどう見るか』

巻頭エッセー

日本語にとって幸福とは何か

遊佐 芳泰

子供の頃、兄弟や友だちの間だけで通じる、暗号のようなことばを使っていたことがあった。親たち大人の世界には理解できない、子供世界だけの通信用語だった。子供のいたずらをいつも叱りつけるような、コワモテの大人が現れると、「ホニホニ」と言って四散した。「ホニ」は、「本気で逃げろ」の略語で、僕たちだけでしか機能しなかった。

僕が働いていた新聞業界には、「ハラキリ」という業界用語があった。「切腹」を連想するのは正しいが、人の生死に関わる用語ではなかった。新聞紙面のレイアウト用語の一つで、1 ページの紙面は、段のどこかを見出しで区切らなければならない、という原則があった。見出しで区切られていない段がある状態を、「ハラキリ」と言った。「ハラキリ」は、原則禁止だった。

限られた子供たちの間で通用する用語や、特定の業界だけで通用する用語は、数多くある。それは、日本語という枠組みの中で考えれば、特殊な用語や語法と言える。だが、世界の言語という枠組みで考えると、日本語全体が、日本人だけで通用する言語という位置づけになる。世界の言語の中で、けしてスタンダードとは言えない日本語自体が、特殊とみなされる。

言語は、どんな言語でも、時代と共に変化する生き物のような側面を持っている。時代環境や生活環境の変化に応じて、使われる用語の使用頻度や新たな用語の抽出頻度、あるいは、用語や語法の意味も変化する。固定的に捉えることができない要素を、言語は無尽蔵に抱えている。

現代日本語の場合、20 世紀の日本語と 21 世紀の日本語では、質的にかなり異なる部分がある。画像表現や映像表現の普及と、インターネット環境の普及によって、言語の用途にズレが生じたと言えるかもしれない。共通化と個別化が、同時並行で進んでいるようなズレ、そのズレを科学的に説明する手法は、まだ確立していない。

日本の言語は元々、和語と漢語が折衷して成り立っていた。明治時代以降は、そこに欧米語が入り込み、戦後になってその数は飛躍的に増大、21 世紀に入ると、アルファベットが日常生活に溢れる状態になっている。和漢欧が、ほとんど無規範に折衷して成り立っているのが、現代日本語と言える。

僕は、この状態が生むズレは、いくつかのギャップに繋がると思う。かつては「方言」という地域間ギャップが知られていたが、世代間ギャップ、男女間のジェンダー・ギャップ、仕事上のワークライフ・ギャップ、そして、多言語間ギャップに繋がる。日本語が、マルチリンガルなピジンになっているこの状態は、日本語にとって、幸福なのだろうか。

特

集

文字化時代の 日本語を考える

—会話体の文字化と日本語特性—

日本語研究班編著

会話体の文字化への眼差し

～認識・思考・表現の回路と近現代日本語～

日本語研究班

文字で会話する時代

日 常会話を文字化する傾向が、目立ち始めたのは、21 世紀に入ってからです。電子メール機能付き携帯電話が、普及してからと言えます。その後、ブログやツイッター、フェイスブックやラインと、個人ベースの情報発信ツールの裾野が広がり、日常会話を文字化する頻度は、一気に高まりました。

「ヤバっ」「ダサっ」「美味ッ」「恐えッ」「寒ぶッ」。こういう日本語って、もう当たり前っすよね。しゃべりっうーか、めっちゃ文字っちゃう会話っうーか、SNS？ そういうステージっうーの？ そういうところでも、平気で使うっすよね。ダメっすか？

ダメじゃねえーけどさ、やっぱ、やべえーかもな。身内じゃねー奴ん時に、ポロッと出っと、やっぱな。タメ口叩いてんじゃねえー、とかなるかもな。

そうっすか……。そうっすかも、ダメっすか？ 丁寧語っすよ、オレらにしたら……。
ダメじゃねえーけどさ……。

かつては電話で伝えていたことを、時には細かな感情表現まで、アニメーション付き絵文字アイコンを組み込んで文字化し、コミュニケーションを図ろうとする。文字化された日本語は、機械的的双方向性は担保されながらも、一方的になるリスクと背中合わせです。

にもかかわらず、会話体の文字化は、加速傾向にあります。ボクたちは、この現象を「平成の言文一致現象」と呼んでいます。

■文字が果たす役割

言 語 (Language) が果たす大きな役割の一つが、コミュニケーション・ツールとしての機能です。話しことばの場合は特に、他者への「伝達 (transmission)」が主要な目的になります。能動的に話す場合も、受動的に答える場

特 集 文字化時代の日本語を考える

合も、相手に何かを伝えるために、ことばを駆使すると言えます。

しかし、文字を使った言語活動は、「伝達」が主な目的になるとは限りません。広い意味では、「記録(record)」も伝達の一つですが、文字には、それ以外の機能があります。

「伝達」「記録」以外の文字機能の代表例が、「計算(calculation)」です。「計算」は、その結果を誰かに伝えることはあっても、計算プロセスの計算式を全部、相手に伝えるとは限りません。計算結果だけを伝えて、プロセスは隠しておくことがあり得ます。計算プロセスの文字は、論理性を立証するための手段で、読んだ人が理解できないケースもあり得ます。プログラム言語の場合は、結果としての機能が重要で、機器の利用者が、組み込まれたプログラム言語を読むことは、ほぼ皆無と言えます。

電子機器が普及する以前から、誰にも見せないことを前提として、日記を書く習慣を持った人はいました。手帳に予定を書き込むのも、頭の中を整理する手段です。読むことを想定しているのは、第三者ではなく、自分自身です。ボクたちは、このような言語活動を「思考(thinking)」と呼んでいます。

このように、他者が見ないことを前提とした言語活動を持つことが、話しことばと文字との大きなちがいです。

■会話体の文字化の落とし穴

会

話体の文字化は、望ましい側面があります。日常会話の文脈で文字化された日本語は、わかりやすいという大きな長所を持っています。情報過多の時代に、わかりやすさは重要な要素で、難解さを凌駕する可能性を秘めています。

しかし、日常会話の文字化には、大きな落とし穴が潜んでいます。明治時代初期、二葉亭四迷は、いわゆる言文一致を試みました。今日の

小説でも多用される「会話」による物語の進行は、当時としては画期的だったと言えます。ところが、現代の視点でその文を読むと、かなり違和感を覚えます。会話体自体がすでに古びていて、現代性に乏しいのです。夏目漱石や森鷗外のような、言語論的論理性でも劣っています。

会話体の文字化は、時代と共に変化することばの変化の中で、すぐに古びます。ある年の流行語が、アッという間に忘れられ、新しい流行語に取って代わられるように、長く親しまれる確率は、極めて低いと言えます。

また、特定の人たちの会話体が抽出されるため、圏外の人たちには、親近感より違和感が先行する可能性があります。ある「地域のことば(dialect)」をベースにした会話体文は、一部の人たちには近しさや物珍しさで受け入れられても、他の人たちは拒否反応を示す可能性があるのです。共有可能な「一般性(generality)」が限定されるためです。

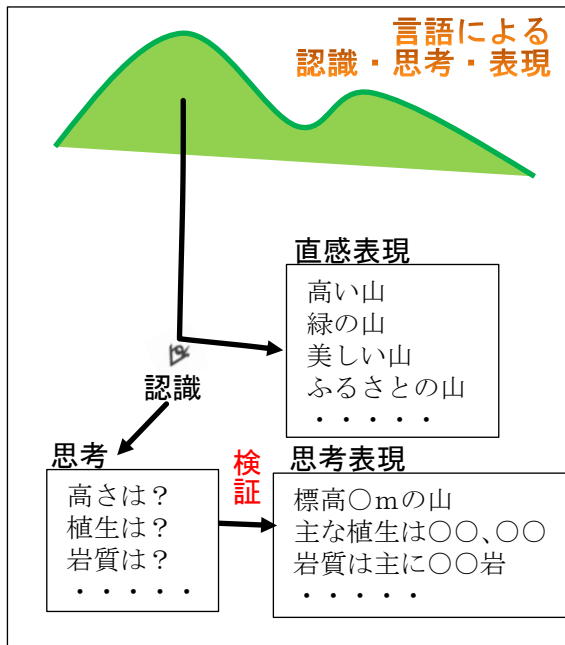
ボクたちは、会話体の文字化は、一時の「現象(appearance)」に留まる用語や語法が多いと見ています。後の傾向に影響を与えたとしても、長く定着する可能性の低いケースが、かなりのウェイトを占めると言えます。

■直感表現と思考表現

言

語は一般的に、事物や現象、状態などを認識(recognition)し、思考し、表現(expression)するツールと考えられています。次頁に示す図のように、認識を瞬時の思考で表現するのは、「直感表現(intuitive expression)」です。それに対して、思考に一定の時間をかけ、時には実地に「検証(verification)」してからの表現は、「思考表現(thinking expression)」です。どちらも必要な表現手法で、一方に偏りすぎることが考えものなのです。

スマートフォン時代の日本語に懸念され



るのが、「直感表現」の増加です。「直感表現」は、災害時の避難など、瞬時の判断を必要とするケースでは有効です。考えている暇があったら行動しろ、という場合は、論理的な検証や説明など、二の次で良くなります。直感を重視する俳句などの文芸創作でも、有効かもしれません。しかし、日常生活の全場面で、それが有効とはならないのです。

冷静に考えて行動し、発言する必要があるケースでは、「直感表現」が有害になることがあります。見た感じの「好き／嫌い」だけで物事を判断する。内容を知らずに「良い／悪い」を判断する。噂を鵜呑みにして言い触らす。口を慎むべきことを、不用意に感情的に言ってしまう。その弊害は、会話レベルで至る所に現れます。それが文字レベルになると、放置できない事態を招くことがあります。

■言語混在の現代日本語

近 代日本語は、和語と漢語で成り立つとされて来ました。しかし、その実態は、欧米語を加えた和漢欧のことばが混在している言語

と言えます。

文字レベルでは、ひらがな、カタカナ、漢字が、日本語の基本文字とされています。これに「、」「。」などの若干の記号を使って書くのが、いわゆる「学校文法」とされる書法です。欧米語は、カタカナ表記するのが基本で、タテ書きの伝統を持つ「国語」は、アラビア数字を回避し続けました。

しかし、日本人の言語生活の実態は、アルファベットがかなり入り込み、カタカナ変換なしで意味が通じるケースが増加しています。GDPやIOCのように、略語表記の氾濫も見られます。また、ヨコ書きが一般化していて、数字をアラビア数字で書くのは今や当たり前、SNSを含む電子機器上では、故意にタテ書きにする機能を持たせない限り、タテ表示自体が困難です。つまり、言語環境の実態と言語教育の方針との間に、かなりのズレがあるのです。より正確に言えば、言語教育の方針が、実態に追いついて行けないのが、実情と言えるでしょう。

このため、ほとんど未コントロール状態の欧米語表記やことば遊びレベルの造語、俗語や地域のことば、ジェンダー特有の表現などが、無規範に混在する状態になっているのが、現代日本語です。用語数の増加と人の用語認識能力の限界とが、「思考表現」を混乱させると言えます。それが端的に現れているのが、文字化された会話体表現です。

言語現象は、ある意味では「文化(culture)」です。しかし、すべての言語現象が「文化」を意識することは不可能です。文字レベルの現代日本語は、和語と漢語に欧米語(カタカナ語とアルファベット語)の混在が激しく、流動性が高くなっています。そのため、言語の有効性を担保(意味不明を回避)し、一定の水準を保つ努力が必要と言えます。

※参考になされた文献

二葉亭四迷著『浮雲』(青空文庫) https://www.aozora.gr.jp/cards/000006/files/1869_33656.html
 藤澤和斉著『思考言語と表現言語』(2014年8月、日本語のチカラ)
https://kf-planning.blogspot.com/2014/08/blog-post_31.html

「3.11」 ツイート分析

～災害時に文字化された“つぶやき”の日本語～

日本語研究班

「伝わらない」を伝える

ひ

とつのツイートが、ネットワーク上に投じられました。2011年（平成23年）3月11日18時35分のことです。巨大地震に伴う津波の襲来で、孤立を強いられた地域から発信されたツイートでした。

△△県〇〇市××町営グラウンド付近で津波によって取り残されている人たち救助を待っています。どこにも連絡が取れないため救助をおねがいします。誰か助けてくださいお願いします。

その日本語は、基本を忠実に守り、感情を抑制して冷静に綴られたものでした。このツイートが功を奏し、被災した人たちの早期救助に結びついたと言われています。

これが契機になり、ツイッターなどの「ソーシャル・メディア（Social Media）」は、災害時の人命救助に果たす役割が大きいために、クローズアップされことになりました。東日本大震災が発生した2011年は、《ソーシャル・メディア元年》とまで言われ、その存在感は高まりました。

ボクたちは当時、ツイッターに目を向けようという思考回路を、持ち合わせてはいませんでした。そこでどんな通信が行われていたのかもわからないまま、地震後のことを考えていました。

近現代日本語を考える上で、ソーシャルメディアに目を向ける必要があると、考えるようになったのは、それから5年余り過ぎてからでした。ボクたちは、ツイート・データの収集を試みました。2011年3月11日の巨大地震発生後から、翌朝にかけてのツイートです。ここに掲載するのは、その分析結果です。

■調査データの概要

ボ

クたちが収集したツイート・データは、2016年（平成26年）6月時点で、約5年さかのぼって集めた3,294件です。地震発生を起点に、翌朝までほぼ17時間程度のツイートです。ただし、地震関連の全ツイートとは言えません。抽出方法は、「地震」「津波」などの用語抽出です。ハッシュタグ（#）は普及していない状態でした。内訳は、次のとおりです。

- 認証済みアカウント 49件（官公庁、マスコミ等）
- 会社アカウント 6件（「株」入り）

特集 文字化時代の日本語を考える

- 個人アカウント 3,239 件（団体らしきものを含む）

個人アカウントが、大半を占めています。このうち 7 件は、内容未記述のツイートのため、実質は 3,287 件になります。

また、記述内容は、大きく分類すると次のとおりです。

- URL（http://***）入り 1,632 件
全体の 49.5%を占め、地震・津波情報へのナビゲートや引用先を照会している

- URL+「情報」を使用 635 件
全体の 19.3%で、主に地震や津波に関する「情報」へのアクセス照会をしている

残る 1,665 件（全体の 50.2%）が、主にコメントを中心にしたツイートと言えます。このうち、冒頭に紹介したツイートを含む、被災地域からと思われるものは、わずか 4 件です。それ以外の 1,661 件は、物理的被害がないか、軽微な被害にとどまったと考えられる地域からのツイートです。

ボクたちが主な調査対象としたのは、その 1,661 件に、URL 入りでもコメントがある場合のツイートを加えたものです。ほとんどが、災害のテレビ映像を見てのコメントで、一部に身の回りの状況報告、被災地域の親族や知人の安否確認依頼が含まれています。

■「連絡」がらみの日本語表記

会

話体の文字化は、「やばい」「マジ」「めっちゃ」など、注目されがちな単語がいくつかあります。調査データの中にも、これらの単語が一定の頻度で使われています。しかし、ここでは、それを後回しにし、災害時のツイッ

ーが注目される契機になった、連絡ツールとしての日本語表現から検証して行きます。

冒頭で紹介した被災地域からのツイートは、身の回りの状況を説明し、どこにも「連絡が取れない」から救助をお願いしたい、という簡潔な日本語です。映像を見ての衝撃や怯えといった感情表現を、一切含まない冷静な日本語になっています。このような表現は、他のツイート群の感情表現の多さに比べると、ある意味では異例なほどです。

ボクたちは、3,287 件のツイートの中から、「連絡」「繋（つな）」という単語が入ったものを抽出しました。

「連絡」は、計 77 回使用されています。内訳は、「連絡が取れない」状態を綴ったものが 38 回、「連絡が取れた」状態を綴ったものが 12 回、「連絡をください」「連絡したい」などの連絡願望が 6 回、その他の 21 回は、地震・津波情報と称するサイトへのアクセス誘引を「連絡」としていたり、電話回線の混雑状況を指して「連絡とりづらい」としていたりするケースです。また、電話などが「繋がらない」状態を綴ったものが、17 回検出されました。冒頭のツイート以外は、福島県

◆「連絡」の出現頻度

主な意味	頻度	割合
連絡が取れない	38 回	49.3%
連絡が取れた	12 回	15.6%
連絡願望の表記	6 回	7.8%
その他	21 回	27.3%
小 計	77 回	100%

◆「繋がる」系のことばの出現頻度

主な意味	頻度	割合
繋がらない	17 回	100%
繋がった	0 回	0%
小 計	17 回	100%
全 計	94 回	—

特 集 文字化時代の日本語を考える

北部からの無事を伝えるツイートを除いて、直接の被災地域以外からと考えられます。

そのうち、「連絡が取れない」に代表される「通信ができない」状態を表現した用法は、下表のようになります。全 55 件中 54 件は、直接の被災地域以外と推測されます。大きく分類すると、「連絡が取れない」「連絡がつかない」「繋がらない」（一部の例外を除く）になります。それぞれ「取」「繋」の漢字表記とひらがな表記があり、格助詞「～が」の使用と省略とがあります。

同文重複の RT（リツイート）や QT（クォート・ツイート）を除いて、使用頻度が最

も高いのは「繋がらない（つながらない）」の 7 回で、次いで「連絡が取れない」と「繋がらず（つながらず）」が各 5 回、「連絡取れない」が 4 回となっています。

拡散希望や緊急を含めて、両親などの近い親族と通信ができないという、余裕のない心理状態と読み取れるのは 11 件です。うち「連絡が取れません（連絡がとれません）」2 回、「繋がりません」1 回の丁寧表現が RT を生じさせています。

その日本語は、次のようなものです。

〇〇の実家が地震、津波の被害を受け

◆「連絡が取れない」状態表記の出現頻度

用 語	回数	内 訳							
連絡が取れません	11	拡散希望	1			RT	10		
連絡がとれません	7	拡散希望	1			RT or QT	6		
連絡が取れていません	1			(親戚と)	1				
連絡がとれていません	1	(親族と)	1						
連絡取れません	1			(東北と)	1				
連絡が取れない	5	緊急	1	(友人と)	2			又聞き	2
連絡取れない	4			(家族友人)	3			励まし	1
連絡取ない	1	(親族と)	1						
連絡取れず	1	(親族と)	1						
連絡とれなくて	1			(先生と)	1				
連絡がつきません	1				1				
連絡がつかない	2			(東京と)	2				
連絡不能	1			(親戚と)	1				
連絡が通じない	1			(法人と)	1				
小 計	38		6		13		16		3

◆「繋がらない」状態表記の出現頻度

用 語	回数	内 訳							
繋がりません	4	(親族と)	1	(回線が)	1	RT	2		
つながりません	1			(仲間と)	1				
繋がらない	6	(親族と)	1	(回線が)	4			誘引	1
つながらない	1							誘引	1
繋がらず	3	(親族と)	2	(海外から)	1				
つながらず	2	(病院から)	1	(海外から)	1				
小 計	17		5		8		2		2

※注) RT は「リツイート」、QT は「クォート・ツイート（コメント+RT）」を示す。

特集 文字化時代の日本語を考える

たとおもわれます。家族、親戚と連絡が取れません。〇〇方面の情報を集めています。よろしくお願い致します。

死者も出ている●●県▲▲市に住む、祖父、曾祖母と連絡がとれません！高齢で沿岸部に住んでいます。地震、津波の被害情報が全くわかりません。なんでもいいです情報が欲しいです！みなさんお願いします！

私の母が、△△病院に入院しています。何度病院に電話しても繋がりません。病院の状況を御存じの方いらっしゃいましたらお教え下さい。

これらの丁寧表現で綴られたツイートは、RTを喚起する効果を生んだことは確かです。しかし、住所、氏名がわからない人の安否確認に、成果が上がったかどうかは疑問です。また、ツイートというステージに、安否確認をしたい人の住所、氏名を掲示することが、適切かどうかとも疑問です。

一方、「連絡取れない」「連絡がつかない」「繋がらない」のような常体表現は、重いものから軽いものまで、マチマチです。自分自身の状態を書き込んだツイート以外に、又聞き情報があり、通信手段の紹介があり、海外から通信できないと書いたものがありと、千差万別な内容が混在しています。そのため、仮に深刻な状態を書こうとしていたとしても、真意が伝わらない可能性を秘めています。

テレビでしか情報が入って来ない。家族と連絡取れない。遠く離れた地で、ひとり不安でしかたない。

このツイートに反応している人は、誰もいません。家族と連絡が取れず、心配で不安だと書いているのですが、「来ない」「取れない」「しかたない」と、「～ない」を短文で3回繰り返し、依頼表現がありません。過剰否定になり、印象を薄くしていると言えます。家族の所在地を特定する具体性にも欠け、心情表現の域に留まったままなのです。人を動かす力に乏しい日本語と言わざるを得ません。

■具体的名称と丁寧表現は有効だが・・・

以 上の考察から、災害時に緊急の拡散や伝達を期待するツイートでは、できれば「連絡」を使い、丁寧語で具体的名称を入れた日本語文が有効と言えます。しかし、ボクたちは、「ソーシャル・メディア」が災害時に果たす役割を、過大評価するのは禁物と考えています。

流言やデマ、成り済まし、過剰な批判の応酬、外野の空騒ぎなど、日本語表現法とは別次元のリスクを「ソーシャル・メディア」は持っています。そのことを踏まえた活用規範が必要なのは、言うまでもありません。

「の」「ん」表記を検証

次 にボクたちが取り上げるのは、音韻レベルの会話体表現です。この表現法は、「～しちゃう（～しちゃった）」「～かな（あ）」「～じゃねえ」

特集 文字化時代の日本語を考える

など、さまざまな用法に及んでいます。その中でボクたちは、「の」の「ん」表記について調査しました。

■「なんだ」と「なんで」の使用傾向

日

本人の日常会話で、「の」音を「ん」音に発音する傾向は、かなり一般化している現象です。

「～ので」を「～んで」、「～のだ」を「～んだ」とするような用法です。

先行する用法として、「～なんて」「～なんか」がありますが、両語の「ん」は、原型「～など（ぞ）」を「～なんて（か）」とする用法で、「の」の変化形ではありません。ここで取り上げるのは、明らかに「の」が「ん」に変化したとみなせる用法です。

下表は、用法ごとのツイート上の出現頻度を示しています。「なんだ」「るんだ」「いんだ」「たんだ」「なんで」の出現頻度が高く、「いんで」「うんだ」は低頻度です。

このうち、最初に取り上げるのは、「なんだ」と「なんで」です。

ご承知のとおり、「なんだ」は、語尾につけて「～なんだ」とする用法と、疑問を表す「何だ？」があります。「なんで」も同様に、

◆「の」の「ん」表記の出現頻度

用 法	出現頻度	備 考
なんだ	36 回	「なんだか」を除く
いんだ	20 回	「～ないんだ」11 回
うんだ	5 回	動詞終止形+「んだ」3 回
たんだ	17 回	全て動詞過去形+「んだ」
るんだ	33 回	全て動詞終止形+「んだ」
もん	7 回	「もんだ」「もんな」「もんは」
なんで	16 回	「なんでも」を除く
いんで	4 回	全て「～いんです」
たんで	7 回	「～たんです」6 回
るんで	6 回	「～るんです」4 回

「～なんで」とする用法と、疑問形の「なんで？」があります。両語共に同音異義になるため、使い分けが必要になります。

調査の結果、「なんだ」は、文中か文末に使用するケースが 27 回、残る 8 回が文頭使用でした。文頭使用の場合、感嘆詞に近い用法でした。

なんだこの大規模な地震・津波は・・・

なんだこれ、怖すぎる・・・

え…なんだよ…これは…((;°Д°)ガク
ガクブルブル

なんだとおおお

明確に疑問詞として使用しているケースは、次の 1 回でした。

明治と昭和の三陸大津波、阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震の経験はなんだったんだろうと思います

文中か文末に使用するケースでは、次のような事例がありました。

地震津波きてさらに吹雪てどこまで

◆「なんだ」「なんで」の用法別出現頻度

用 法	用法	出現頻度
なんだ	助詞用法	27 回
	感嘆詞用法	8 回
	疑問詞用法	1 回
なんで	助詞用法	11 回
	疑問詞用法	5 回

特集 文字化時代の日本語を考える

踏んだり蹴ったりなんだよ

うちのぬこが異様な興奮状態なんだが。(※注)「ぬ」は「ね」か)

何か映像見ると日本で起こってると
思えないが、日本なんだ。

みんな無事なんだろうか・・・、

町中が火事なんだけど。。

助け合うことが大切なんだと思い知
られます。

一方、「なんで」は、16 回中 11 回が文中
か文末でした。5 回が文頭使用で、基本的
には「なぜ」の意味で使われていました。

なんでこうも不幸って重なるんだよ

なんでこんなに防波堤低かった・・・

なんで旅行の時にこんなことに……。

文末使用の場合は、「～なんです」が大半
を占め、「～なんでしょうか」が 2 回含ま
れていました。

しかし、「～なんで、・・・」のような、
文を区切る使い方が、抽出データの中では 1
回もなかったのは意外でした。

■誤解を生まない使い方を！

日

本語として、「なんだ」「なんで」
の表記は、必ずしも不自然とは
言えません。ただし、使い方で
意味が分かれ、誤解を招く要素を孕んでいま
す。「なんだとおおお」をボクたちは、驚き
の表現と理解しました。しかし、怒りの表現
と理解することも可能です。

「なんで」の場合も、例示した文頭使用の
「なんで」は、「なぜ？」と理由を尋ねなが
ら、苛立ちや怒りに近い感情を表現している
ように読めます。「なぜ？」に対する回答を、
強く求めているようには読めないのです。

文字表記の場合、会話とちがいで、表情が見
えず、語気や抑揚を正確に読み取ることは不
可能です。そのため、読み方一つで勝手な解
釈が可能になるリスクを、常に孕んでいます。
会話ならば、即刻訂正が可能なことが、訂正
できなくなるリスクもあります。

「なんだ」と「なんで」は、「なんだか」
「なんでも」のような用法もあります。その
ため、意味の混在がさらに重複する要素を持
っています。会話ならばスムーズに伝わるこ
とが、文字化したために、予想外の誤解を招
くかもしれません。入力ミスで、意味変化を
起こすこともあるでしょう。よほど注意して
表記しないと、いたずらに誤解を招く用法と
言えます。

■その他の「の」の「ん」表記

こ

れ以外の「～んだ」「～んで」
は、基本的には文末使用の用法
でした。「なんで」と同様に、「～
んで、・・・」のような文を区切る用法は、

特集 文字化時代の日本語を考える

検出されませんでした。

「いんだ」「いで」は、形容詞につく「～ないんだ」「～ないんです」「～ないんでしょう」をはじめ、「～強いんだ」のような用法がすべてでした。

「うんだ」は、動詞終止形につく使用法でした。俗語用法として、「～なっちゃうんだ」が2回検出されました。

「るんだ」と「たんだ」は、「～いるんだ」「～いたんだ」のように、時制による使い分けがすべてでした。

「やばい」と「マジ」

テ

レビ映像を見ての感情表現と思われるツイートは、東日本大震災の場合、かなりの数を占めます。

被災地域と直接の関係は比較的薄く、映像に衝撃を受けて綴ったと思われるツイート群です。

その中で、突出して多い使用語は「凄（すご、スゴ、スゲ）」の111回ですが、「やばい」と「マジ」も、50回程度の頻度で検出されました。両語共に、日常会話の文字化を象徴する単語の一つです。ここでは、両語の使用傾向を検証します。

◆「やば」と「まじ」の表記別出現頻度

表 記 法	出現頻度
やば	28 回
やべ	5 回
ヤバ	23 回
計	56 回
まじ	27 回
マジ	22 回
計	49 回

■何が「やばい」の？

両

語の表記法は、ひらがな表記とカタカナ表記が混在しています。ひらがな表記が若干多いものの、ほぼ半々という傾向を示しています。

「やばい」をひらがな表記したケースでは、次のような事例が検出されました。

やばい、テレビの映像。決して映画じゃない。こわい。

地震、津波警報に釘付け…本当やばいわ！

二階のテレビコーナーに人がやばい。戦時中かよっくらい。。

前者二つの表記は、テレビ映像を見ての「やばい」です。映像に対する直感表現と言えます。残る一つは「人がやばい」です。テレビコーナーに人が集まっている状況を、主観的に思い浮かんだ「戦時中」と対比して、「やばい」と表現しています。「やばい」のは、災害そのものより、テレビに人だかりができています。表現からは、そのようにしか読み取れないのですが、結果的に当時の人々の状況を伝えています。なお、「かよっくらい。。」の会話体が、どの程度の割合で理解されるかは不明です。

次に、カタカナ表記のケースです。

テレビで地震・津波状況見てるけど、なんかヤバいよ(ㄟ)

特集 文字化時代の日本語を考える

地震.津波ゲキヤバっΣ(ノ ㏏<)っ！！

まじみなさん余震・津波にきをつけて！

津波警報でなくても逃げないとヤバイ！！！！どう考えても！！！！

つなみがくるまじ

前者二つの表記は、テレビ映像を見てのものと考えられますが、絵文字を使っています。このような事例は、「リアル地震津波被害ヤバイ(´・_・`)」のような表記にも見られます。絵文字表現は、やはり、ふざけた印象を拭えない一面があります。残る一つの「逃げないとヤバイ！！！！」は、現地の人たちに言っているのか、自分自身に言っているのか、不明です。文字からは、真意が伝わらない表記と言わざるを得ないでしょう。

また、「やべ」には次のような事例がありました。

やべえ西日本の人たち無事なのか？

この表記は、「やべえ西日本の人たち」という理解を生みます。真意は恐らく、「やばい！！ 西日本の人たち無事なのか？」でしょうが、誤解を生む日本語表記の事例です。

■「マジ」に関する適正性

次

に「マジ」についてです。ひらがな表記のケースから検証します。

おいおい…まじかよ…

地震、津波まじやバイみたいだね！！

前者2例の「まじ」は、一般的な「まじ」とすぐに理解できます。3番目は、「まじみなさん」と表記しているため、一瞬理解の戸惑う表記になっています。「まじみなさん、って誰？」と読めるからです。

4番目の「まじ」は、古文的解釈の「津波が来ないでしょう」という意味なのか、「マジで津波が来る」という意味なのか、理解不能です。二つの解釈は180度のちがいがあするため、仮に緊急性を要していたとしても、見落とされる確率が高いと言えます。全文字がひらがな表記なのも、故意なのか、機械操作に不慣れなためなのか、わかりません。課題が大きいツイートと言えます。

次に、カタカナ表記についてです。

マジでやべー地震。

日本マジヤバです！

今は2次被害について真剣に考えないと。マジでメルトダウンの危機です！

カタカナ表記の「マジ」は、いわゆる「マジ」として理解できず。「本当に」という意味で機能していて、誤解を生む可能性が少ないと言えます。その他の事例でも、理解でき

特集 文字化時代の日本語を考える

ない使用法は検出されず、カタカナ表記が適正なのかもしれません。

■「～かな」と「～じゃない」の多用

ボ

クたちは、これまで書いた用語や用法以外にも、会話体表現を検証しました。さまざまな表現が検出できましたが、出現品度が高いのが「かな」と「じゃ」です。

「かな」は、短歌や俳句で感嘆を表す古文用法があります。しかし、現代日本語では、「～かな（あ）？」のように、軽い疑問を表す用法になります。その出現頻度はかなり高く、55回を数えました。

また、「じゃ」は、「～じゃない（じゃなく）」を中心に48回使われ、否定を表す用法と「～じゃないか」のように、不確かな断定を表す用法に分岐していました。

「かな」「じゃ」は、必ずしも新しい日本語用法とは言えません。ただし、正規の文字表記では避ける、会話体表記と言えます。特に「かな」は、多用する傾向にあるア行小文字「あ」と結びついて、使用頻度が高まっていると言えます。

そのほか、文頭と文中の使用が分かれる「なんか」が、一定の頻度で検出されました。また、「というか」の略語に相当する「てか」

は、下表例のように文頭で使用するケースのみで、「～ってか？」のような使用例は、検出できませんでした。「めっちゃ」「～っす」は、下表のような事例です。

下表以外では、「～ちゃう（～ちゃった）」「～じゃう（～じゃった）」を検証しました。「～ちゃう」は、変化形（～ちゃった）を含めて4回と、低い使用頻度でした。「～じゃう（～じゃった）」は、検出されませんでした。表記としては、使いづらい用法なのかもしれません。

また、ア行音の小文字化は、「あ」が圧倒的に多く49回、中でも「～なあ」が大半を占めていました。「わあ」「はあ」「～かあ」の表記も見られました。「え」は、「あ」に次いで多く、否定を表す「～ねえ」が大半でした。出現頻度は低いものの、「～にい」「～るう」が見られました。

■ツイート空間の特性

ツ

イートという掲示板機能を利用した“つぶやき空間”に、いわゆる「正しい日本語」なるものを求めることは、本末転倒と言えるかもしれません。その本来の機能は、「ことばの質」など度返した落書き空間です。だからこそ成り立っていると言えます。

◆その他の会話体表記の事例

用 語	出現頻度	事 例
かな	55 回	みんな大丈夫かなあ／物価の高騰とかしないのかな？
じゃ	48 回	人ごとじゃない／余震じゃなくて／予知できてなかったじゃねーか
なんか	19 回	なんか、えらいことになってる？／デマなんか流して煽るな
てか	4 回	てかさ、もう、お願いだ お願いだよ
めっちゃ	4 回	めっちゃ怖いよー(；Д；)!!／めっちゃ不安やろな
っす	3 回	場合じゃないっすよね…！

特集 文字化時代の日本語を考える

しかし、その落書き空間は、インターネット空間という特性上、見る人と場所が限定されることはありません。いつでも、どこでも、不特定多数の人が見るのが可能という特性を持っています。だからこそ、そこで綴られる日本語には、一定の質が求められていると考えます。

西日本豪雨とツイッター

ボ

クたちは、2018年(平成30年)7月の西日本豪雨で、数多くのツイートを認知しました。そのツイート群は、東日本大震災時点に比べると、かなり進化しています。住所を明記して「#救助要請」のようなハッシュタグを付け、写真や動画を同時にアップするという手法です。その手法を推奨するひな形が、幾度か掲示されているのも目にしました。

被害が大きかった岡山県倉敷市真備町からのツイートは、テレビ報道が取り上げていない7月7日午前の時点で、数多く確認できました。通報に一定の効果を発揮しながら、救助に至らなかった方々がいることに、お悔やみのことばを捧げます。

一方、その被害情報に対して、愛媛県西予市野村町などの他地域から、「こちらの被害もひどい」というツイートが、寄せられていたことも事実です。数の上では少ないツイートが、深刻な事態を伝えているという状況は、災害時のツイッター活用の課題の一つと言えます。

また、救助要請というより、報道要請のよ

うに受け止められかねないツイートが、いくつか見受けられました。メディアの報道体制に限界がある中で、広域災害の認知をどう進めるかは、東日本大震災のケースと同じだったと言えます。

ボクたちはまだ、西日本豪雨のツイート群の検証や考察を、実施している訳ではありません。自然災害が多発する近年、ツイッターが、災害通報に一定の効果を発揮することは確かでしょう。しかし、その通報が、人命救助に直結するとは限らないことを、ボクたちは認識する必要があるでしょう。

日本語の書き方の問題としてではなく、自然災害への対応体制の問題として、検証が必要と考えます。

【参考にさせて頂いた文献】

- ・ツイッター 言語検索により「地震 津波」、日付検索により「2011-3-12」で表示されたツイート群、及び同日付の言語検索による「大槌」で表示されたツイート群から抽出(データ収集は2016年6月)。地名は特定を避けるため、修正した。
- ・立入勝義著『検証 東日本大震災 そのときソーシャルメディアは何を伝えたか?』(2011年6月、ディスカヴァー携書)
- ・ツイッター 2018年7月7日～同年7月9日の「#救助要請」で検索したツイート群。検索日時とデータ収集は、2018年7月7日と同年7月9日。

簡略化に見る日本語の節度

～なぜ日本語は短さを求めるのか～

日本語研究班

~~~~~

## 「早短分」は通じる？

**こ** とばは時代を映す鏡、と言われることがあります。ある時代の流行や潮流、価値観や空気まで、ことばは表現します。今風に言えば、トレンドとか、キーワードが相応しいでしょうか。

人気芸能人の個人名や売れ筋の商品名などの固有名詞を除いて、どんなことばに注目が集まるのかは、時々刻々と変化します。インターネット社会ではことさらに、その変化のスピードは早まります。

ボクたちは、その変化のスピードに対応しようという考えを、早々に諦めています。技術的に対応できない側面はありますが、対応することに意味があるのか、という考えがあるからです。

外国語を含めて、一時の流行語に囚われるより、もっと大切なことがあるのではないかと。商品・サービスの販売促進ツールとしての日本語より、見逃されがちな日本語に目を向ける方が大切ではないか、と考えるのです。

### ■言語の平易化と簡略化

**現** 代日本人の言語的思考回路として、平易化と簡略化は、時代が要請するキーワードの一つと言えます。平易化とは「やさしく、わかりやすい」、簡略化とは「簡単で、面倒くさくない」と言えるでしょう。

ボクたちの研究領域で言えば、平易化に該当するのはオノマトペ表現があります。簡略化に該当するのは、名詞の簡略化（漢字語、欧米語、漢欧合成語）、形容詞や副詞の簡略化が主なものです。

言語の平易化と簡略化には、それぞれメリットとデメリットがあります。平易化の場合は、理解者の裾野が広がるのが、最大のメリットです。半面、難解なことを平易化することは、かなり困難と言えます。

簡略化の場合は、端的な表現になるのが最大のメリットと言えます。半面、用語によっては、理解不能になるデメリットがあります。簡略語の意味を、説明する必要が生じてしまうのです。

ボクたちがここで考察するのは、日本語の簡略化についてです。

### ■日本語の略語の特性

**日** 本語は、略語が多い言語と言われています。すでに定着していて、略語とは認識されていない略語から、意味不明な若者略語まで、その形態は多様です。

欧米系の言語にも、もちろん略語は存在します。E U (Europe Union) やU S A (United State of America) のような固有名詞から、C K (check) のような日常語まで、多岐にわたると言われています。

しかし、日本語の略語には、他の言語にはない特徴があります。それは、和語と漢語と

## 特集 文字化時代の日本語を考える

欧米語が混在する、日本語ならではの特徴と言えます。単純に単語を短縮したケースから、複合短縮のケースまで、極めて複雑です。

文字レベルでは、現代日本語には、ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベットが混在しています。アラビア数字を加えると、5種類の文字があり、組み合わせの可能性は、ほぼ無限大です。

### ■短縮化先進地の東北地方

**会** 話レベルの言語の短縮化では、東北地方は先進地域だったと言えます。「へば、ままけ」「んで、あばい」「あぜ、げわり」「はっば、こねで」は、東北地方のことばに馴染みの薄い人には、理解が難しいかもしれません。

それぞれの意味は、「だったら、ご飯食べなさい」「では、行きましょう」「暑い、具合悪い」「さっぱり、来ないよ」になります。発音文字数の短縮率は、半端ではありません。

また、「ちがくて」と発音をする東北女子がいます。原型は「違うくて」で、「違う」という動詞に「く」をつけて副詞化し、それを短縮した用法です。東北地方は、やはり日本語短縮化先進地に「違うくない」のです。

さらに、形容詞の「～い」を短縮して、「～ッ」という用法は、東北地方では、かなり馴染みがあるものでした。「寒ッ」は、「さぶッ」というより、「さめッ」でしょう。「怖ッ」は、「こえッ」ですよね。

これらの会話体レベルの短縮語が、文字化されてインターネット空間に表示される現象は、2000年以降に特異な現象と言えます。20年に満たない歴史を考えると、その永続性が、どこまであるかは疑問です。

### ■略語パターンの分類

方、インターネットの普及以前からの用語の短縮化、いわゆる略語は、日本語の特性と深く関わっています。インターネットがあろうとなかろうと、日本語にはそれが起こるのです。

ボクたちは、このような用語の短縮化を、主に名詞について、3つのパターンに分類して考えています。その分類は、以下のようになります。なお、分類が難しいパターンは、その他としています。

- ① 漢字合成語の簡略化
- ② 欧米語の簡略化
- ③ 欧米語を含む合成語の簡略化

### ◆日本語の略語パターン

| 用 語           | 事 例                                                                                                                                                                       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 漢字合成語の簡略化     | 国交省（国土交通省）／経団連（日本経済団体連合会）／信金（信用金庫）／中高（中等学校と高等学校）／卒論（卒業論文）／就活（就職活動）／原発（原子力発電・所）／難民（避難した民）／上物（上等な物）／安近短（安くて近くて短い）                                                           |
| 欧米語の簡略化       | インフラ（infrastructure）／スーパー（super market）／スマホ（smart phone）／プレゼン（presentation）／ケアマネ（care manager）／サプリ（supplement）／コンビニ（convenience store）／パート（part timer）／バイト（albeit）        |
| 欧米語を含む合成語の簡略化 | 自己ベスト（personal best record）／P波（primary 波）／B級グルメ（Bランクの gourmet）／K点（Kritisch 点）／合コン（合同 company）／ゆるキャラ（ゆるい character）／イクメン（育児する men *厳密には man）／ガス欠（gasoline 欠乏）／リア充（real 充実） |
| その他           | 激辛（とても辛い）／イマイチ（いまひとつ）                                                                                                                                                     |

## 特集 文字化時代の日本語を考える

### ④ その他

表は、その分類に従った事例のほんの一部です。略語辞典という辞書ができるほど、その数は膨大なものです。官公庁用語から世俗語に至るまで、ある意味では無節操なくらいに、日本語は略語に溢れています。

なぜ日本語では、このような現象が起こりやすいのでしょうか。

### ■言語に対する時短欲

# 漢

字合成語や欧米語の場合、字数の問題が大きく関わっていることは確かでしょう。書く、話す、入力する、いずれの場合も、字数の多さは解消したい課題になり、時短（時間短縮）の欲求が高まります。

「日本経済団体連合会」と「経団連」では、字数にして3倍の開きがあります。漢字は画数があるため、手書き文字では、画数に応じて、さらに面倒な書記が必要になる場合があります。

欧米語の場合は、「インフラストラクチャー」と「インフラ」のように、文字数削減のみならず、infrastructure への理解を、「インフラ」と言えば上下水道や送電網などを指すとすれば、わかりやすくなります。

しかし、欧米語の簡略化は、日本でしか通用しないという弊害を持っています。また、原義を歪曲することがあり、infrastructure の場合は、公共的な「基盤施設」ばかりではなく、個人的に重要な「設備」を含みます。

いずれにしても、日本人が略語を好む背景には、意識下に日本語に対する時短欲求があると考えられます。裏返せば、日本語はそれだけ、日本人にとっても面倒くさい言語、なのかもしれません。

### ■簡略化と言語への節度

# 欧

米語を含む合成語の簡略化は、「蘭学」以来の伝統です。「蘭学」自体、Holland の land だけ切り取って「蘭」の文字を当て、「学」と合成しています。必然的にその読みは「ホラントガク」ではなく、「ランガク」です。

日本とアメリカを意味する「日米」は、歴史教科書に載るペリー来航まで遡ります。国内資料で確認できる「日米修好通商条約」の正式名称は、「日本國米利堅合衆國修好通商條約」です。「米利堅合衆國」の短縮形が、「米（べい）国」になったと言えます。

欧米語を含む合成語の簡略化は、それが浸透するまで、意味不明語になりがちです。今でこそ浸透している「デパ地下」「ゆるキャラ」「イクメン」は、初めは、何のことかまったく理解できませんでした。

ボクたちは、この分類の簡略化は、ことば遊びで済むケースばかりではないと考えます。例えば「自己ベスト」は、「記録(record)」の語が抜けているため、最善を尽くせば「今の自分のベスト」になってしまいます。

ボクたちは良く、日本語に保守的な方々の意見として、「日本語の美しさ」を強調する文と出会います。ボクたちは、「美しさ」は大切と考えます。しかし、一方の伝統的な節度のなさに、蓋する訳には行かないのです。

ことば遊びは、子供たちの言語能力を育てることで知られています。そのことば遊びを、大人たちが伝統的に繰り返し、奇妙奇天烈な日本語を生みながら、相互理解が成り立たない現象さえ生み出しました。

節度とは、ある種の規範です。永久不変の規範ではなく、時代に応じた規範が、現代日本語には求められていると言えます。

#### ※参考にした文献

情報通信総合研究所監修・編著『IT用語 カタカナ・略語辞典』（2002年、imidás別冊付録、集英社）  
『新聞で使われる省略語・日本語表現の特徴』（JAPANESE STUDIES）<http://japanologie.arts.kuleuven.be/>  
国立国会図書館『日本國米利堅合衆國修好通商條約』（同館レファレンス協同データベース）  
<http://crd.ndl.go.jp/>



## 日本語論

## 「日本語」という日本語

～「和語」と「日本語」の切り分け～



日本語研究班

ワタシたちの  
日本語のために

## ●東日本大震災の日本語体験

**ワ**タシたちが、本格的に日本語の研究を始めたのは、東日本大震災以降のことです。日本語の成り立ちの研究は、それ以前もワタシたちなりにしていました。でも、日本語をとにかく言う気持ちなんて、さらさらありませんでした。

でも、ワタシたちは、震災をきっかけに途方もない「失語」を体験しました。日本語を書いて、何かを伝えるお仕事をして来たワタシたちは、ナンテいうか、日本語から分離しちゃった感覚に襲われたんです。何んにも書けないっていうより、何を書いてもウソっぽい。自分で書いた日本語を読んで、「ちがうだろおー！」って感じです。

そこでワタシたちは、「近代日本語史」の研究を始めました。日本語の成り立ちを、ワタシたちなりにもう一度研究して、納得できる日本語を模索し始めたんです。

## ●「日本語の起源」って・・・

**明**治時代以降の日本語の成り立ちを研究して行くと、以前に読んだ日本語についての本がフツと頭をよぎりました。「日本語の起源」とか言って、朝鮮半島のことばとか、モンゴル

のことばとか、チベット系ナンチャラ語とか、南方系ナンチャラ語とか、ものすごく深堀している本がいくつもありました。調べた研究者の方には、とっても敬意を評します。でも、これってどうなんだろう？ とワタシは思いました。

大昔に影響関係はあったかもしれないけど、その時代のことばって、日本語？ 日本語って呼んで良いの？ ちょっと、ちがうんじゃない？

## ●明治以前は「和語」にしよう

**結**論から言うと、ワタシたちは、明治時代以前の日本列島のことばを「日本語」とは呼びません。書きことばと話しことばを含め、「和語」と呼びます。「日本語」は、明治時代になって、近代日本語づくりが始まってから、初めて日本語になったと結論づけました。

ご承知のとおり、江戸時代以前の日本列島には、和語と漢語がありました。和語は一般的に、「大和ことば」とみなされています。それから、漢語は、呉音、唐音、漢音が、時代や地域ごとに、バラバラに列島に入ってきました。その漢語が、原型のまま列島に根付いたかということ、勝手に読み替えるは、書き換えるは、解釈は手前味噌で、造語は作るはと、もうハチャメチャなことをやって来たと、ある明治時代の知識人が書いています。ア然とするくらいひどい、代を重ねるとさらに変テコリンになる、和製漢語のオンパレードで



す。原型なんてあったもんじゃありません。

そこで、ワタシたちは、明治時代以前の日本列島で使われていたことば全体を、「和語」にしたのです。そこには、いわゆる「大和ことば」、意味と読みの実態はハチャメチャな和製漢語と「和漢混合文」、意思疎通さえ難しかった多様な地域のことばが、含まれています。「和語」は、江戸時代に実際に使われていたことばです。それから、今の日本語のひらがな語や訓読語は、「和語的用法」と呼ぶことにしました。

### ●ワタシたちの日本語の課題

**日** 本語から江戸時代以前を切り離れたことで、ワタシの日本語に対する気持ちは、かなり楽になりました。平安時代まで遡って日本語を考える必要はないし、150年くらいの歴史の中で日本語のことを考えれば良いと思うと、ホッとすする気持ちになりました。

でも、その150年くらいの日本語の歴史の中でさえ、「日本語」という日本語と同じように、これってどうなの？ 変じゃない？ ということばに、いくつも出会うようになりました。

そこには、いくつかの原因というか、要因というか、仕方がなかった部分も含めて、課題がいっぱいだったんだと思います。ワタシたちなりに分類した主な要因というか、課題というかは、次のとおりです。

1. 男性ことばと女性ことばが、使って来た文字までちがうから、別々の日本語みたいになっちゃった。
2. 多様な「地域のことば」があって、人によって、しっくり来る日本語と、しっくり来ない日本語を分けちゃった。
3. 外国語の翻訳語が、変な日本語だらけで、ピッチャシ感なしや意味ちがう語、ワカラ

ンチャ語になることが多かった。

4. 戦後の日本語に欧米語がいっぱい入って、ワカランチャ語が増え、日本語と欧米語を併記しないと、意味が伝わらないくらい、困ったチャンになった。
5. 話しことばと書きことばが落差大で、SNS時代に入ってから「日常会話の文書化（第二次言文一致現象）」が進むようになった。

### ●日本語をどう書くの？

**ワ** タシたちの日本語研究は、ワタシたちなりの研究なので、異論のある方もいらっしゃるでしょう。ただ、冒頭にも触れたように、ワタシたちがワタシたち自身でしっくり来る日本語を、模索していることはご理解ください。

ワタシたちのフィールドは、基本的には書きことばです。書きことばの日本語は、SNS空間にさまよい出ています。その傾向と「日常会話の文書化」を、ワタシたちは否定しません。むしろ会話を文字化しようとする意気込みに、捨てたもんじゃなさを感じます。

でも、書きことばフィールドに携わって来た身からすれば、そのアナーキーさには愕然とします。それと、日本語長文は、どうすれば読んでもらえるのか、という課題が残ります。140字ではとても書き切れない事柄が、この世界には山のようにあるからです。

ワタシたちは、日本語づくりに努力して来られた方々に、心から敬意を評します。でも、その努力が生んだ現状については、良いもの良い、悪いものは悪いと判定しなければならない立場にあると思ってます。個人攻撃をするつもりはありません。あくまで、作られた日本語の矛盾点を指摘しながら、ワタシたちなりの日本語にして行きたいだけなのです。

## 日本語論

# ワタシたちの「日本」

## ～「ニホン」と「ニッポン」～



日本語研究班

### さよなら 「ニッポン」

**オ** リンピックなどの国際競技のテレビ中継で、アナウンサーがやや興奮気味に実況放送をするのは、今や当たり前の光景です。中には、「イケーッ！ イケーッ！」と声をからし気味に絶叫した後、「ヤッターッ！ やりました、ニッポン！ ついに、ついに、ニッポンが逆転です！」。こうなると、パブリック・ビューイングの観客たちは、総立ちになって歓声を上げ、肩を組んで跳ね回りながら、興奮と熱狂の雨あられになるのでしょう。

ワタシは、たいていの場合、一人さみしくテレビ観戦しているケースが多いし、関心の薄い競技の場合は、やや冷ややかに、「出ました、ニッポン！ またまたニッポン連呼の始まりです」と思ってしまう。

みなさんは、この「ニッポン」という日本語をどう思いますか？

#### ●ワタシたちのルール

**ワ** タシたちの日本語研究班では、「日本」という漢字に対する読み方を、特定の固有名詞（団体名や会社名の正式名称など）を除いて、「ニホン」に統一しています。「日本語」は「ニホンゴ」と読み、「ニッポンゴ」とは読みま

せん。「日本人」は「ニホンジン」と読み、「ニッポンジン」とは読みません。「日本国」は「ニホンコク」です。

NHKでは、国号を表す場合などは「ニッポン」とするという方針があるそうです。でも、少なくともワタシたちは、「日本」は「ニホン」と読むことにしています。どうしても「ニッポン」と読んでもらいたい時は、カタカナ書きにするのが、ワタシたちの基本ルールです。

そういうワタシたちのルール感覚からすると、アナウンサーが連呼する「ニッポン」、あるいは、スタンドのサポーターたちが唱和する「ニッポン！」に、限りなく違和感を覚えるのです。「恥ずかしいから、やめてくれない？」とさえ思ってしまう。

と、まあ、ワタシの主観的意見はここまでにしておきます。

#### ●「日」と「本」の組み合わせ音

**ワ** タシたちの日本語研究手法のひとつに、とりあえず現状を無視して、文字音韻の組み合わせを作るというやり方があります。「日本」を構成しているのは、「日」と「本」という漢字二文字です。

この二文字は、「日」は「ニチ」「ジツ」「ヒ」「カ」、  
「本」は「ホン」「ポン」「ボン」「モト」の各4種類の読み方をするのが一般的です。「日」の場合は、熟語頭音で「ニッ」と読むケース（日程、日中など）があるので、

## ◆「日」と「本」の音韻組み合わせ表

|   |    | 本    |      |      |      |
|---|----|------|------|------|------|
|   |    | ホン   | ボン   | ボン   | モト   |
| 日 | ニチ | ニチホン | ニチボン | ニチボン | ニチモト |
|   | ジツ | ジツホン | ジツボン | ジツボン | ジツモト |
|   | ヒ  | ヒホン  | ヒボン  | ヒボン  | ヒモト  |
|   | カ  | カホン  | カボン  | カボン  | カモト  |
|   | ニッ | ニッホン | ニッポン | ニッポン | ニッモト |

それを加えて組み合わせを作りました。その結果が上表です。全部で 20 通りの組み合わせができます。

その組み合わせの大多数は、現代日本語読みではありません。唯一「ニッポン」だけが、読み方から見た有効な組み合わせになっています。しかし、「ニホン」は含まれてはいません。

もしかして、「ニホン」に統一しているワタシたちの方が、おかしい？ 恥ずかしいのは、ワタシたちの方？

## ●ワタシたちが「ニホン」と読む理由

ワ

タシたちが、読み方指定の固有名詞を除いて、「ニホン」という読み方に統一している理由

は、次のことが挙げられます。

- ① 各種世論調査の結果によると、「ニホン」の使用が優位な傾向にある。
- ② ワタシたちが日常会話で聞くのは、「ニホン」が圧倒的に多く、ワタシたち自身も「ニホン」と言う。

上表が示すように、「日」を「ニ」と読むのは、確かにルール上は不適切です。「ニッ」の促音を省略した用法で、「ニチ」→「ニッ」→「ニ」の音便変化がもたらした結果と言えます。「ニホン」も「ニッポン」もどっちもどっち、漢字読みを勝手に変えて懲りない、伝統的な島国気質の音韻です。

厳密に言えば「日本」は、「ニチホン」と

か「ニチボン」、「ジツホン」「ヒホン」「ヒモト」「カボン」などと読まれて、不思議はありません。両漢字音の組み合わせ上、そう読める妥当性はある、ある意味では、それが正しい読み方かもしれません。

しかし、ワタシたち日本人は、いくつもの読み方が可能だった「日本」を、「ニホン」か「ニッポン」と読むように習慣づいて来ました。明治時代以降のことです。

## ●戦後民主主義的な「ニホン」

歴

史的記述を紐解くと、戦前の日本では、「ニッポン」に馴染んでいた可能性が高いと言えます。80 年前の 1934 年（昭和 9 年）には、当時の文部省臨時国語調査会が「ニッポン」への統一案を決議しましたが、政府は採択しなかったそうです。

以来、日本政府は、「ニホン」でも「ニッポン」でも両方可。確かに、会社名に「日本」を付けていて、統一なんてお話になったら、エライ迷惑でしょうね。

ワタシたちは、固有の「日本（ニッポン）」は尊重します。でも、オリンピックで日本がゲームに勝った時は、「日本（ニホン）が勝った」です。ゲームの対戦は、「日本（ニホン）対相手国」です。ワタシたちの的には、「日本（ニホン）」の方が戦後民主主義的で現代性が高く、クールでスマートです。

ワタシたちが国際試合を実況することは、まちがってもないので、興奮気味の「やりました！ ニッポン！」は聞き流します。また、選手が「日本（ニホン）」と言っているのに、外野から「ニッポン！」と叫ぶのは、やっぱりズレてると思います。

※参考にさせて頂いた文献）NHK放送文化研究所・宮本克美著『「ニホン」か「ニッポン」か 「日本」の読み方の現在』（2004 年 4 月、『放送研究と調査』）<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/research/002.html>、日経電子版『ニホン VS ニッポン 「日本」の読み方、どっちが優勢？』（2012 年 1 月、日本経済新聞）<https://style.nikkei.com/article/>

# 現代語訳『民間備荒録』 第一回

建部清庵著 遊佐芳泰訳

## はじめに

王にとって、「天下」とは領民です。領民にとって、「天下」とは食べ物です。それぞれの「天下」は、一見すると別々のようです。でも、農業が何より大事という考え方は同じです。

農業は、「天下」の基本です。農業がしっかりしてれば、国は平和です。

私は、藩から少しばかりの禄(給料)を頂いている身です。いつもは、農地を耕すことなく、それなりにのんびりと毎日を過ごして来ました。農民の力で、生かされて来たんです。

でも、今年は、異常な長雨が続いて、米や粟が実りません。農民たちは、葉物ばかり食べています。とてもじゃないけど、見てられません。私は、才能ないのは承知の上で、人々が飢饉に備える方法を書くことにしました。そして、この書物を村主や名主などの有力者に与えて、天の恵みに生かされて来たことに報いたいと願っています。

宝暦五年（一七五五年）の冬の日

『民間備荒録』は、江戸時代中期の「宝暦の大飢饉」後に著された、日本で最も古い救荒書の一つと言われています。奥州・一関藩の侍医として、飢饉の惨状を目の当たりにした建部清庵（1712～1782）が、いつ再来するとも限らない飢饉に備えて、食用になる植物の植栽法、その保存法、調理法などを説いた書物です。

同書を現代語に意訳する目的は、先人が残した食用植物に関する知見が、後世を生きる私たちに十分に理解されていない現状に、一石を投じることにあります。現代にも通じる考え方や現代人が忘れた植物資源の活かし方など、面白く読める内容を、分かりやすく伝えたいと考えました。底本としたのは、一関市立図書館蔵『一関市史 第7巻』収載の活字版です。

自然災害リスクへの対応が問われる中で、先人の知見をそのまま活用することはできないとしても、そこに著された災害に備える姿勢を、楽しく読んで頂ければ幸いです。

## 凡例

宝暦五年（一七七五年）は、五月中旬からずっと寒くて、八月末まで雨が降り続きました。この間に、雨が降らなかった日数は、五日から七日くらいでした。寒さはまるで、初冬並みでした。

夏の暑い時期に、みんなが衣を重ね着していました。水田に入って作業をする人は、手足が冷えて、手にひび割れができるほどでした。植えた稲は成長せず、ようやく穂が出たと思ったら、実らないまま枯れてしまいました。奥州は大飢饉になり、人々の嘆きと言ったら絶句ものでした。

ここ一関では、貯蔵庫（モミ倉）を開いて、神社や藩の役人が懸命に心を砕いて領民を救いました。そのため、領民が飢えて難民になることはありませんでした。でも、周辺の村々から、食べ物に困った人たちが流れて来ました。痩せ細って頬のこけた老若男女が、アリのように群れて来る姿は、目を覆うほどでした。

私のご先祖の墓参りに大慈山を詣でた今年の晦日、行き帰りに目にしたのは、そういう光景でした。ゾツとするほど悲惨でした。悲しい思いながら、この身は貧しく、救う力はありません。家に帰って、ド壺に落ち込みました。

私はこれまで、農民の力で、のんびりした日々を過ごしてきました。その恩に万分の一でも報いるのは、せめてこの時と思いました。でも、昼夜に思い悩んでも、才能のない私には、良い方法が思い浮かびません。

そんなある日、友人の郷内勝清君の家を訪ね、飢饉の時の政治について話をしました。すると彼は、机の上にあった『荒政要覧』を見せてくれました。

「これダッ！」

目から鱗でした。その書物から私は、草やその根、木の葉が、瀕死の命を長らえさせることを学びました。

私は、この『民間備荒録』を編んで、村主や名主などの村の実力者に与えたいと思います。それから、食中毒などの二つの解毒薬を調査し、この土地の領民に施そうと思います。

日ごろの恩に報いるために著した本書は、十二月には編纂を終えていました。でも、序文に初冬の日付を入れるのは、縁起が良くないのでやめときました。

左に本書を編む理由を述べて、凡例を捧げますので、ご覧ください。

一、本書は、村主や名主などの村の実力者に対する啓蒙書です。飢饉から命を救うため、果実が実る木を植え、飢饉に備えようとするものです。本書は、草と木を別扱いにしています。冬に食べられる植物を前段に記し、春が来て食べられる植物を後段に記しています。飢えた人々が、少しでも見やすいように考えました。



二、本書は、草木の和名を右に付けています。地元の呼び名は、左につけています。地元の呼び名を入れたのは、領民が分かんないと意味ないからです。

三、宝暦五年（一七七五年）の飢饉で、村人たちが自分たちで手作りした食糧の中で、大変役に立った草木の種類を若干載せています。これは、村主や名主、農家の古老にインタビューして集めたものです。後で編纂し直した方が良いと思っています。ただ、何とも歯がゆいのは、私自身の不学だけでなく、寒い土地での事例を示す書物が乏しく、掲載情報が正しいかどうかを幅広くチェックできないことです。私の知識では、租税について思いをめぐらすこともできていません。後の世の君子は、私に才能がなかったから他の方法を知らず、草やその根、木の葉で瀕死の命を長らえさせようと画策したと、その心を憐れむかもしれません。ほかに救荒（飢饉から人の命を救う）の良い方法があれば、増補してください。

末永く飢饉の憂いがないことを願うばかりです。

#### ※訳者補足

地球環境史の中で、太陽活動が低下し、地球の気温が全体的に下がったとされる14世紀頃から19世紀中頃まで時期は、「小氷期（Little Ice Age）」と呼ばれています。「小氷期」には、寒冷化の度合いが大きかった時期が、三つあったと推測されています。

- ① シュペーラー極小期（Spörer Minimum）  
1416年～1534年の寒冷期。日本の戦国時代にあたります。
  - ② マウンダー極小期（Maunder Minimum）  
1645～1720年の寒冷期。「停滞の17世紀」イギリスのテムズ川氷結が有名。
  - ③ ダントン極小期（Dalton Minimum）  
1790年～1820年の寒冷期。フランス革命からウィーン体制時代にあたります。
- この記述にある宝暦五年（1775年）は、「マウンダー極小期」と「ダントン極小期」の中間期に相当します。

## 第一章 飢饉に備えて木を植えよう！

人が生きるのに、一日だって欠かせないのは、衣食住の三つです。そのうち、一番大事なのが、「食」です。

『礼記』<sup>\*1</sup>（中国の古典）には、王の食糧政策を説いて、三年とか九年の食糧備蓄法が書かれています。日本でも、古代には食糧備蓄基地のような領地があったそうです。でも、今は途絶えています。

私が住む一関では、飢饉に備えて、昔から所々に食糧備蓄の貯蔵庫（モミ倉）を建て、万が一の時に飢えた人々を救うようにしています。でも、これが災いしている面があります。領民は、それぞれが自分のための蓄えをしないのです。そのため、凶作になると、「助けてくれ」と言うばかりです。今年のような凶作の年には、茫然として為す術がないのが実態です。豊かな土地に暮らす人々は、財産なんて作らず、成り行き任せで毎日を暮らす傾向があります。それでは困るので、他藩でもわが藩のように、備蓄体制を敷いている所があるでしょう。

この飢饉で目にした飢えた人々の姿に、私は、孟子のことばを思い出しました。「老弱溝壑（こうがく）に転じ壯者散じて四方に行く（老いて弱った者はどぶ川に横たわり、元気な者は四散していなくなってしまう）」。こういうことは、村の有力者たちが、日頃から飢饉に備えて心を尽くしていないから起こるのです。

愚かな考えの人々は、金銀を蓄えることが好きです。でも、お金は、飢えの時に食べられません。寒さの時に、着ることができません。凶作になると、飢えて凍死するしかなくなることを知らないのです。

また、五穀を蓄えることを知っている人は、自分だけ助かろうとします。みんなと食べ物を分かち合おうとしないのです。だから、桑やナツメ、柿、栗を植えていても、飢饉の年に援助しようとしません。とても悲しいことです。

### 明の太祖の食糧政策

明の太祖（洪武帝）<sup>\*2</sup>は、領民が食糧に乏しいことを思い、洪武二十年（1389年）に陽鳳<sup>\*3</sup>、滁州<sup>\*4</sup>、和州<sup>\*5</sup>の人々に命じました。家ごとに桑を二百株、柿を二百株、ナツメを二百株ずつ植えて、飢饉に備えよ、という命令でした。

さらに洪武二十七年（1394年）に、再び村々に命じる政令を出しました。今度は、全国の農民に対して、桑とナツメをできる限り多く植えるよう教えよ、というものでした。農家に、初年は二百株、次の年は四百株、三年目は六百株になる食用植物を育てる

よう命じたのです。冊子を作って、周知を図りました。違反した者は、家を取り上げ、軍に徴兵するという内容でした。太祖は、工部の臣下を諭して言ったそうです。

「人は、日頃からの当たり前の行いをなおざりにすることで、安らぐものだ。飽食すれば飢えを忘れ、暖かければ寒さを忘れ、備えに思いを馳せることがない。だが、ひとたび凶作になると、茫然として打つ手をなくしてしまう。深く民の悩みを知り、百計をもつて民を監督し、皆が食の豊かさと暖かさを手に入れられるようにする。近年は、幸いにして実り豊かで民は自足し、それぞれの里は、平安で憂いがないことだろう。だが、飢えや寒さを防ぐことを一日として忘れてはならない。そなたたち工部の者は、それを民に諭し、空き地があれば、皆が桑とナツメを植えるよう命ぜよ。凶作の嘆きを味わう年には、衣食の助けにもなることだろう」

そのような真意をもった政令だったそうです。

宮廷にいる身でありながら、人々が凶作に苦しむことを憂い、予防のための方策を示したことは、人々にはありがたいことでした。

### 一 閭閻民の食糧備蓄の現状と打開策

なのに、私が暮らす一閭と言え、同じ村に生まれ、村人から選ばれて肝入り<sup>\*</sup>や組頭となった者が、賦役以外は食べ物の恩恵に浴していながら、村人を救う方法に思いを馳せません。「何事か！」です。

韓信<sup>\*</sup>は、こう言っています。

「人の車に乗る者は、人の憂いを乗せる。人の衣を着る者は、人の憂いを抱く。人の食を喰らう者は、人のことに死す」

それぞれの村で代表を務め、村から恵みを受けているということは、衣食を村人に頼っているということです。それは、村人の憂いを抱き、村人のために死ぬ覚悟で務める職にいるっていうことでしょ！ 飢饉を救う奇策がないのは悲しくないけど、彼らの真心のなさを憂います。「真心は即ち奇策なり」という古人のことばがあります。村人が飢饉で苦しむのを悲しみ、思う心さえあれば、凶作を救う方法はあるはずです。

周辺の村から、数百人もの飢えた人々が、群がって流れて来るのを見れば、その村にも優れた肝入りや組頭はいないのでしょ。彼らを見るにつけ、凶作が続けば、人はこのようになり、私だって例外ではないと、わきまえたいと思います。

果実が実る樹木で、凶作の年に食糧になるものを数多く植え、十年後に起こるかもしれない凶作を防ぎましょ。七年後の病いに、三年で育つヨモギを求めるのです。今から心を尽くしていれば、その後の憂いはなくなります。七年前の凶作の年に、心を砕いて準備をしておけば、今年ほどの悲惨な目に会うことはなかったでしょう。

「飽食すれば飢えを忘れ、暖かければ寒さを忘れて、備えに思いを馳せることもない」

私は、愚かな考えの人々が、救われる方法を知らず、飢饉に喘ぐ姿は見るに忍びません。「庖人<sup>\*</sup>。雖不治庖、尸祝<sup>\*9</sup>。不越樽俎而代之矣。料理人が料理しないからといって、神官が神酒の樽や供物台を踏み越えて、台所に立つてはならない」という莊子の戒めを顧みず、飢饉に備える樹木の活用法の方法を上巻に書きます。そして、今すぐ食べられる草木の解毒方法を下巻に書きます。

(第一回了)

※訳者注記

注1) 『礼記』 儒教の礼に関する注釈などを記した書物。全49篇からなるとされています。宋代に朱熹が独立させた四書のうち、『大学』『中庸』を含んでいます。

注2) 洪武帝 明の初代皇帝で、名は朱元璋。貧農の家に生まれ、元末に紅巾の乱に参加して、皇帝の地位まで上り詰めました。重農政策をとりましたが、商人や知識人を弾圧し、親族を粛清した暴君の一面があります。清庵が奉じるような名君とは言えません。

注3) 陽鳳 鳳陽の誤りか。現在の中国安徽省の滁州市にある県。明の太祖(朱元璋)の出身地です。

注4) 滁州 現在の中国安徽省の滁州市のことと考えられます。

注5) 和州 かつて中国にあった州名で、現存しません。現在の安徽省と考えられます。

注6) 肝入り 組頭 著者による補注として、民間では村長(むらおさ)や保正を肝入り、組頭と呼ぶとしています。

注7) 韓信 中国の秦末から前漢初期にかけての武将。張良・蕭何と共に漢の三傑の一人です。

注8) 庖人 料理人。

注9) 尸祝 神主祭りの時に祭り文を読む人。巫女。転じて崇拜して慕うことを指します。

## 現代日本語文の技法講座

## 「～し」と「～して」の使い方

日本語研究班

## ▲ 繰り返しは禁物！ ▲

「～し」「～して」は、現代日本語文で良く見かける用法の一つです。重文構造の時に便利なのか、何度も繰り返される文を時々目にします。「……し(て)、……し(て)、……し(て)、……し(て)、……した」のような日本語文です。文法上のまちがいはないのですが、くどい印象を受けるケースがほとんどです。

現代日本語は、長文を嫌い、短文を好む傾向が顕著になっています。そのため、長い重文は嫌われると思って、ほぼまちがいはありません。

では、単文構造を好む傾向に合わせて、「……した。……した。……した。……した。……した」とすれば良いのでしょうか？ 恐らく、味もそっけもない、単調な日本語文になること請け合いです。ケース・バイ・ケースとはいえ、淡泊になりすぎるのです。

## ▲ 幅広い用途 ▲

「～し」「～して」の接続技法は、添加接続詞「そして」を省略した、重文構造の日本語を作ります。日本語文法上は、「～し」が動詞「する」の連用形、「て」が接続助詞に分類されています。終止形とみなせる「～している」は、「する連用形+て+いる」の複合動詞で、単独の動詞扱いされないのが現状です。

「～している(た)」は、英語文法の

現在進行形 (be ～ing) と現在完了進行形 (have been ～ing) を基本に、過去進行形 (was - were ～ing) と過去完了進行形 (had been ～ing) に対応しています。用途として、広い範囲をカバーする用法です。

「～し」「～して」の主な使い方は、名詞熟語を動詞化した時に表れます。

「出場し(て)」「感動し(て)」のような使い方です。接続構造にならず、「感動してます」のように、単文で完結するケースもあります。「厚くして(いる)」のように、副詞にも連結します。

また、動詞活用形の「動かして」「乾かして」「浮かして」のように、かつては「～せて」とした使役の用法と、命令形に使うケースが増えています。

## ▲ 上手く使ってメリハリを！ ▲

ボクたちは、「～し」「～して」を比較的多用しています。ただし、その使用限度は、基本的に1文3回までです。技法的には、「……して、……し、……した」のように、文構成のリズムを大切にしています。「～して」だけを繰り返さない配慮です。その後に単文を置いてから、「……し、……して、……した」という文にします。「～し」はやや強調、「～して」は柔らかな印象を与える傾向があり、メリハリとリズム感を文脈に生むのです。

「～し」「～して」を上手く使い、日本語文の好感度アップに努めましょう。



# テレビと子どもたちの「心の世界」



村野井均著『子どもはテレビをどう見るか』

(勁草書房刊)



## ■子どもはテレビでまちがう

テレビが生活に深く入り込んだ社会の人の意識は、どのように変化するのだろうか。特に生まれた時からテレビのある環境で育つ子供たちは、テレビによって、どんな影響を受けるのだろうか。その疑問に答える書物は、決して多くはない。『子どもはテレビをどう見るか』(村野井均著)は、テレビが人の意識や心理に与える影響を、番組制作に携わる側からの視点を加味しながら考察している。

同書は、心理学者としてテレビが子供たちに与える影響を長年にわたって調査し、メディア・リテラシーにも関わって来た著者による一つのテレビ論である。乳児の初語(赤ちゃんが初めて話す意味のあることば)へのテレビ語の影響に始まり、幼児期の画面視聴への錯誤(画面の人物にこちらの声は聴こえる等)、コマーシャルが与える影響、現実と虚構の区別判定についてなどを論じている。調査対象は、主に乳幼児から就学前期(小学校低中学年)児童で、学生の幼児期体験を含めて、子供とテレビの関わり方が示されている。

その中で、アニメ『サザエさん』を考察した章は、番組の特性、子供視聴者の誤解傾向、制作者側の工夫をわかりやすくまとめている。著者は同番組を、勧善懲悪のアニメ番組とは切り分け、社会的要素や高度なことば遊び、文学的要素を含んだものと位置づけている。子供たちには難しい内容の番組とし、幼児への調査結果を踏まえて、内容理解度は高くないと指摘する。しかし、その視聴率は極めて高い。著者は、幼児への理解を促すための制作者側の工夫として、時制変化の手法を

取り上げている。過去への回想や心象の夢など、現在形ではないシーンに使うワイプという映像文法の解説を通して、アニメ『サザエさん』が、心の表現手法の提示を通して、子供たちに影響力を持つと示唆する。

同書は、著者自身が「あとがき」で書いているとおり、テレビ視聴に関する「子どもの間違い方を具体的に示」した書物と言える。大人では考えられないテレビ番組への誤解が、数多く例示されている。一方、番組づくりに、子供たちの関心を促している点も見逃せない。番組制作スタッフなどの放送関係者のみならず、乳幼児から小学生までの子供を持つ親にも役立つ教育図書と言えるだろう。

## ■メディア・リテラシーの必要性

子供たちを取り巻く映像環境は、テレビにとどまらず、ゲーム機、インターネット経由の映像受信へと進化し、スマートフォンでの視聴も容易になった。その技術的発展は、「虚構と現実」の境界を曖昧にし、人がそれを鵜呑みにするリスクを高めている。

すべてのメディアは、「二次的現実」という特性を持っている。テレビドラマやゲーム、小説やマンガは虚構だが、その映像作品や印刷物は現実だ。また、津波映像は現実だが、目の前の現実ではないという意味で、意識的に虚構化が可能だ。その複層を子供たちが理解するには、相当の時間を要する。著者は、「メディア・リテラシーは当たり前の教育」と書く。それは、メディアが持つ「虚構と現実」の二面性を、子供たちが制作者目線で学ぶ必要性を強く感じているからと言える。

# 季刊 コトバ座 創刊号

2018 年 8 月 1 日（初版）発行

編 者：シンキング・バーズ  
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：シンキング・バーズ  
〒021-0821

岩手県一関市三関字神田 1 0 5 番 5 号

電話／F A X 0191-23-0724

※『コトバ座』に掲載されている著作物の著作権は、図表を含めてシンキング・バーズに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固く禁止します。